

報告事項 5

寄附受入実績の件

報告事項 6

財務状況の件

運営費の執行状況について

運営費の執行状況（2026年5月末）

（単位：億円）

執行項目	契約済 (2026年5月末)	今後の予定		総合計
	金額	金額	主な内容	
会場管理費	352			
会場運営管理・来客対応費	182	0	—	352
ICT関連費	170			
事業運営費	131			
共創事業費	27	0	—	131
テーマ事業費	40			
催事費	43			
住宅・公式参加国関係費	22			
営業関係費	92			
広報宣伝費	35	26	・万博関連イベント ・ホームページ・サーバ管理 ・公式記録作成 ・広報関係	118
入場券関係費	57			
輸送管理費	222	0	—	222
管理関係費	197	140	・人件費 ・オフィス賃料 ほか	337
合計	994	166		1,160

執行率(5月末)

85.7% ※1契約済金額には公募中の予定価格を含む

※2 今後の予定の内訳については現時点での計画額であり、今後執行過程において変わりうるもの

※3 一部、内訳端数調整有

会場建設費の執行状況について

会場建設費の執行状況について（2026年5月末）

（単位：億円）

執行項目	契約済			今後の予定		執行予定額
	金額	主な内容	前回比 (2026年2月末)	小計	主な内容	
大工区	1,339		+ 47			
PW北東工区	366					
PW南東工区	296	<ul style="list-style-type: none"> ・大屋根（リング） ・パビリオンB、C ・管理施設、ゲート施設等の整備 ・メタン対策 ・附帯整備 (各種サイン・舗装・休憩所等) 	+ 8	51	<ul style="list-style-type: none"> ・各施設解体工事変更対応 ・リユース対応 他 	1,390
PW西工区	350					
GW工区	166					
静けさの森工区等	34					
会場附帯施設等整備	64					
会場施設等維持補修業務	19		+ 2			
会場基盤撤去	44		+ 37			
主要施設	290					
大催事場	94	<ul style="list-style-type: none"> ・各施設整備 ・サテライトスタジオ、休憩所等(20棟) 	+ 1	4	<ul style="list-style-type: none"> ・各施設解体工事変更対応 他 	294
小催事場	50					
迎賓館	39					
テーマ館	55					
若手建築家施設	52					
土木工区	110	<ul style="list-style-type: none"> ・園路基盤整備、水道引込 ・雨水管、污水管、給水管、熱供給管、電気管路、通信管路 		▲ 1	<ul style="list-style-type: none"> ・水道分担金還付 他 	109
インフラ設備 (電気・熱供給、通信、警備設備 等)	247	<ul style="list-style-type: none"> ・電気(引込含)・熱供給・通信設備 ・水質改善設備 ・警備設備等 		3	<ul style="list-style-type: none"> ・解体工事変更対応 他 	250
交通施設	170	<ul style="list-style-type: none"> ・会場外駐車場等整備、付帯設備 ・桜島駅乗降場整備 ・万博アクセスルート整備 		7	<ul style="list-style-type: none"> ・解体工事変更対応 他 	177
環境評価、委託関係	61	<ul style="list-style-type: none"> ・基本設計業務 ・環境影響評価業務 ・プロジェクトマネジメント、カスタマネジメント業務 		1	<ul style="list-style-type: none"> ・解体工事コストマネジメント ・環境影響評価業務変更対応 他 	62
合計	2,217		+ 48	65		2,220
						予備費※ 130
				総計		2,350

※予備費執行承認済み金額は「約62億円」。(総計：約2,282億円 執行予定)
現時点の予備費残額は、「約68億円」の見込。

※「今後の予定」の支出の内訳については、現時点での計画額であり今後の執行過程において変更する場合があります。
※一部、内訳端数調整有

■2,350億円の執行率： 94.3%

(参考) 前回からの進捗内容

- 前回(2026年2月末)からの執行状況 +48億円について

1. 工事工程に合わせた変更契約：約11億円

※変更については、資材等を実勢単価で積算又はコストマネジメントを活用し、物価高も反映済

2. 解体撤去計画通り発注を行った新規工事等の契約締結：約37億円

※いずれも2,350億円の範囲内で執行を予定していたものであるため、会場建設費の新たな増額となるものではない。

1. 工事工程に合わせた変更契約：約11億円

(1-1) PW北東工区 【約0.4億円】

(単位：円)

案件名称	変更概要	変更契約日	変更前金額 (①)	変更後金額 (②)	変更金額 (②-①)
PW北東工区 (解体撤去) ※	大屋根リング解体における養生足場及び木材の状態把握試験等の追加に係る契約変更を行ったもの	2026/3/23	3,150,493,500	3,189,737,100	39,243,600

※一部他財源を充当しているため、会場建設費対象金額のみを掲載。

(参考) 前回からの進捗内容

(1-2) PW西工区 【約8億円】

(単位：円)

案件名称	変更概要	変更契約日	変更前金額 (①)	変更後金額 (②)	変更金額 (②-①)
PW西工区 (解体撤去)	大屋根リングリユース解体への変更に係る契約変更を行ったもの	2026/3/18	2,804,241,000	3,102,209,000	297,968,000
PW西工区 (解体撤去) ※	工事進捗に伴う軽微な変更に係る変更契約を行ったもの	2026/5/7	3,102,209,000	3,557,169,000	454,960,000
合 計					752,928,000

※一部他財源を充当しているため、会場建設費対象金額のみを掲載。

(1-3) 大工区 (会場施設等維持補修業務) 【約1.3億円】

(単位：円)

案件名称	変更概要	変更契約日	変更前金額 (①)	変更後金額 (②)	変更金額 (②-①)
会場施設等維持補修業務※	小修繕及びガス対策の追加等に係る契約変更を行ったもの	2026/3/2	1,189,755,490	1,319,431,960	129,676,470
会場施設等維持補修業務※	小修繕の追加に係る契約変更を行ったもの	2026/4/22	1,319,431,960	1,320,462,660	1,030,700
合 計					130,707,170

※一部他財源を充当しているため、会場建設費対象金額のみを掲載。

(参考) 前回からの進捗内容

(1-4) 大工区 (会場基盤撤去) 【約0.7億円】

(単位:円)

案件名称	変更概要	変更契約日	変更前金額 (①)	変更後金額 (②)	変更金額 (②-①)
会場基盤施設等撤去工事事業監理業務委託	事業監理業務の延長に係る契約変更を行ったもの	2026/3/3	90,874,300	148,536,300	57,662,000
大屋根リング木材リユースマッチング事業におけるリユース解体荷役管理業務委託	第3、4期公募に係る契約変更を行ったもの	2026/3/25	134,112,550	154,780,450	20,667,900
建材/設備機器等リユースマッチング事業におけるリユース解体等業務 (概算契約)	業務量の確定に伴う変更契約を行ったもの	2026/4/20	148,500,000	139,647,805	▲ 8,852,195
合 計					69,477,705

(参考) 前回からの進捗内容

(2-1) 主要施設（大催事場） 【約0.2億円】

(単位：円)

案件名称	変更概要	変更契約日	変更前金額 (①)	変更後金額 (②)	変更金額 (②-①)
施設整備事業 大催事場（解体撤去）	スライド条項の適用に係る契約変更を行ったもの	2026/3/30	337,374,400	359,781,400	22,407,000

(2-2) 主要施設（若手建築家施設） 【約▲0.08億円】

(単位：円)

案件名称	変更概要	変更契約日	変更前金額 (①)	変更後金額 (②)	変更金額 (②-①)
トイレ6 解体工事※	着工時期の変更に係る契約変更を行ったもの	2026/3/11	3,850,000	4,576,000	726,000
トイレ5 解体工事	契約解除を行ったもの	2026/3/23	11,000,000	0	▲11,000,000
休憩所3 解体工事	スライド条項の適用に係る契約変更を行ったもの	2026/4/24	34,689,820	37,283,434	2,593,614
合 計					▲7,680,386

※一部他財源を充当しているため、会場建設費対象金額のみを掲載。

(参考) 前回からの進捗内容

2. 解体撤去計画通り新規発注を行った工事等の契約締結：約37億円

(1) 大工区（会場基盤撤去） 【約37億円】

(単位：円)

案件名称	案件概要	契約日	契約額
会場基盤施設等撤去工事（その1）	会場基盤施設等の撤去工事を行うもの	2026/3/16	1,741,322,000
会場基盤施設等撤去工事（その2）	会場基盤施設等の撤去工事を行うもの	2026/3/16	1,850,112,000
大阪・関西万博会場内パビリオン等の跡地を埋戻す土砂に関する協定書	敷地返却における土砂の購入に係る協定書を締結するもの（概算）	2026/3/31	92,664,000
合 計			3,684,098,000

(2) 主要施設（テーマ館） 【約0.08億円】

(単位：円)

案件名称	案件概要	契約日	契約額
テーマ館「いのちを高める」中島P解体工事監理業務	解体工事の監理を行うもの	2026/3/2	8,250,000

(参考) 前回からの進捗内容

(3) 土木工区 【約0.04億円】

(単位：円)

案件名称	案件概要	執行日	契約額
会場解体工事に関する水道費用（令和8年2月分）	会場解体工事に係る水道費用（令和8年2月分）	2026/3/11	2,890,800
会場解体工事に関する水道費用（令和8年3月分）	会場解体工事に係る水道費用（令和8年3月分）	2026/4/10	1,429,764
合 計			4,320,564

報告事項 7

2025 年日本国際博覧会 成果検証委員会
報告書の件

経済産業省「2025年日本国際博覧会 成果検証委員会」

○ 趣旨

2025年日本国際博覧会の成果を検証し、レガシーとして次世代に継承していくため、経済産業大臣及び国際博覧会担当大臣の下で、有識者・関係者の参加を得て検討する枠組みを設ける。

本委員会では、主に①万博の成果のまとめと検証、②万博の理念・記憶の継承の検討、③万博の成果を社会に実装させる制度的枠組みの検討、④剰余金の活用方針の検討を行う。

○ 全4回開催

- ・ 第1回 2025年 12月25日
- ・ 第2回 2026年 2月27日
- ・ 第3回 2026年 4月27日
- ・ 第4回 2026年 6月 5日～6月10日 書面審議

○ 「大阪・関西万博 理念継承とレガシーの発展に向けて（報告書）（案）」意見募集実施済（2026年5月1日～6月1日）

経済産業省「2025年日本国際博覧会 成果検証委員会」

○ 委員等名簿（五十音順・敬称略）

< 委員 >

十倉 雅和 2025年日本国際博覧会協会
会長 <座長>

池坊 専好 華道家元池坊 次期家元

五神 真 理化学研究所 理事長

佐野 真由子 京都大学大学院 教授

西尾 章治郎 国際高等研究所 所長

藤本 壮介 大阪・関西万博 会場デザイン
プロデューサー

藤原 紀香 日本館 名誉館長

宮地 純 リシュモンジャパン合同会社
カルティエ 前プレジデント & CEO

山極 壽一 総合地球環境学研究所 所長

< 関係者 >

吉村 洋文 大阪府知事

横山 英幸 大阪市長

松本 正義 関西経済連合会 会長

鳥井 信吾 大阪商工会議所 会頭

小林 健 日本商工会議所 会頭

國部 毅 2025年日本国際博覧会協会
財務委員会 委員長

石毛 博行 2025年日本国際博覧会協会
事務総長

レガシー展開にかかる基本方針および剰余金の配分・事業実施体制

【大阪・関西万博のレガシー展開にかかる基本方針】

- 万博の成果を一過性のものとせず、レガシーとして後世に引き継ぐために、(1)万博で創られた「つながり」の拡大・発展、(2)万博を契機とした創造活動の深化・展開、(3)夢洲の「場の記憶」の継承・展開、の3つの取組の柱でレガシー展開を進める。
- 国、地元自治体、経済界、学術機関、その他関係機関が連携して取組み、新技術の実装等による経済の発展、学術・文化を含めた国際交流や観光の拡大、将来世代の育成等を実現していくことを目的とする。
- 剰余金についてはこれら関係主体の取組（剰余金以外の別財源により対応するものを含む）が持続的かつ円滑に実施されるよう、後述する割合で配分し、戦略的に活用していくことが適当と考える。
- レガシー展開の取組にあたってはハードだけでなくソフトも重視し、大阪・関西ワイドとグローバル・ナショナルワイドの視点で整理する。また、国内展開に留めることなく、国際社会や将来の万博にも展開していく。
- 万博の来場者だけでなく、来場できなかった方々や将来世代にもレガシーを届けることを念頭に置き、仕組みを構築する。

【剰余金の配分・事業実施体制】

- 3つの取組の柱に、剰余金をそれぞれ均等に配分する。
- 資金管理の観点から、大阪・関西ワイドで取り組むもの、大阪・関西に限らずグローバル・ナショナルワイドで取り組むものに対し、3つの取組の剰余金の総計を均等に配分する。
- グローバル・ナショナルワイドで取り組むものに関しては、経済産業省の政策的な関与の下、JETROを始めとした関係機関との連携を図りながら、基金設置や信託制度を活用しつつ、具体的な用途・実施体制を検討・決定していく。
- 大阪・関西ワイドで取り組むものに関しては、地元自治体・経済界・国が一体となり設置した未来創造会議にて具体的な用途・実施体制を検討・決定していく。
- 剰余金については、万博に多くの方に来場いただいたことなどで生じたものであることを踏まえ、その用途については、透明性をもって公開され、検証される必要がある。

(1) 万博で創られた「つながり」の拡大・発展

- 万博では、多様な主体が連携した技術・社会実証や海外とのビジネスマッチングなどの経済面でのつながりに加え、来場者や運営管理者も個々に海外とのつながりを構築した。また都市間レベルでも新たな海外ネットワークを拡大した。これらをさらに発展させ、つながりを広げていく。
- 剰余金は、グローバル・ナショナルワイド、大阪・関西ワイドで均等に配分する。

取組内容

■ : グローバル・ナショナルワイドで取り組むもの ■ : 大阪・関西ワイドで取り組むもの ■ : 双方にまたがるもの
(剰余金以外の別財源により対応するものを含む)

■ 最先端技術等の実装化・産業化 (※a)

- 万博で注目された最先端技術等について、政府において検討中の「成長戦略」、「地域未来戦略(※b)」の政策パッケージ等を有効活用し、実装化・産業化を支援する。 ※b : 地域の産業クラスターに関する計画の策定が前提。
- 大阪・関西では、産官一体となりオール関西のトップマネジメントによる「未来創造会議」を立ち上げ、特に大阪・関西で強みを持つ分野について実装化・産業化を支援する(次世代モビリティ、再生医療、カーボンニュートラル、スタートアップ・新事業共創ファーム等)。

※a : 国および大阪・関西で実施される最先端技術等の実装化・産業化については、2025年という国際秩序の変化や生成AIによる技術革新、気候変動対応の在り方など大きな潮流の変化が同時に進行し、人類史の重要な転換点になり得る年に、大阪・関西万博が開催された意義を踏まえ、その経験と知見が将来にわたり社会全体で共有・活用されることが期待される。

■ JETROによる海外との連携・展開支援

- 万博を契機に海外展開を検討するもしくは強化したい日本企業や、日本企業との連携を検討する海外政府・海外企業等に対し、JETROのノウハウとリソースを活用し、ビジネス連携を支援する。

■ 海外若手研究者や専門人材との知的交流を促進

- 万博を機に世界とのつながりを広げようとする学生や若手研究者の相互交流等を促進するため、海外留学等の支援を行う。

■ 国際交流プログラム

- 市民レベルでの国際交流の機会を継続して設ける。

■ 万博に関連した広域観光促進

- 万博を契機に高まった「KANSAI」の知名度や訴求力を活かして、関西広域、西日本広域での観光を促進する。

(2) 万博を契機とした創造活動の深化・展開

- シグネチャーパビリオンやテーマウィークなど、万博を契機に新たな理念や価値を創造した活動を、一過性のものとせず、さらにアップデートを加えながら継続していく。そして、デジタルコンテンツも整備・活用し、子どもたちなど将来世代や会場に足を運ぶことの出来なかった人々が、そうした活動を体験できる機会をつくっていくとともに、次期以降の万博に引き継ぎ、国際的にも発信を続ける。
- 事業の性質に鑑み、全国的・世界的な観点から実施することに比重をおくため、剰余金はグローバル・ナショナルワイドな展開を中心に、大阪・関西ワイドにも一定の割合（取組全体の3割程度）で配分する。

取組内容

■ : グローバル・ナショナルワイドで取り組むもの ■ : 大阪・関西ワイドで取り組むもの ■ : 双方にまたがるもの

■ 未来世代の価値体験機会を拡大

- プロデューサー等による万博を契機とした創造活動の発展・継続を支援する。
- 万博の理念を継承する文化、芸術、学術、教育活動を継続的に支援する。

■ 全国各地でのイベント展開

- 周年事業や記念事業を始めとするアフター万博イベントの実施を全国で支援。万博を契機とした創造活動の深化・展開は、様々な主体により実施されることが望ましく、それらの機運を醸成し、統一感を持って実施する基盤を構築していく。
- 未来創造会議の枠組みを用いて、会期中に大阪・関西で実施したスタートアップイベント、国際会議、展示会等の継続開催を含め、大阪・関西でのイベント開催を支援する。
- 持続的な文化・芸術イベントや音楽イベントなどを分野横断的に展開する。

■ 次期以降の万博出展・イベント等を通じた海外への展開

- 世界が交流する場で日本の魅力を継続的に発信していく。
- 2027年の横浜グリーンエクスポとベオグラード博、2030年のリヤド博の出展においても、大阪・関西万博の理念・活動を継承していく。(※c)
(※c: 剰余金の活用はリヤド博関連から)

■ 将来の万博開催を見据えた国際社会へのレガシーの還元

- 多様な国々による将来の万博開催を見据え、主催国へのノウハウの引継ぎや途上国の人材育成支援等を通じて、国際社会へレガシーを還元する。

(3) 夢洲の「場の記憶」の継承・展開

- 夢洲の会場で育まれた**共創の記憶と熱気は、多くの人々の心に深く刻まれている**。万博の跡地として開発される「夢洲」において、記念公園ゾーンの整備やソフトコンテンツを活用したイベント等を通じて、こうした**「場の記憶」を継承・展開**し、観光誘客の拡大・地域振興にも繋げていく。
- 大阪府・大阪市により進める万博跡地（夢洲第2期のみならず、その周辺区域を含む）のまちづくりのベースとなるマスタープランにおいて、夢洲をレガシー継承の先導的な役割を果たす「場」として位置づけ、リングや静けさの森に象徴される「場の記憶」を継承し、夢洲全体で官民が一体となって万博の記録や成果を日本・世界へ発信する機能の導入を目指す。
- 事業の性質に鑑み、**開催地域に根ざした形で実施していくことに比重をおくため、剰余金は大阪・関西ワイドでの展開を中心に、グローバル・ナショナルワイドにも一定の割合（取組全体の3割程度）で配分する。**

取組内容

■ : グローバル・ナショナルワイドで取り組むもの

■ : 大阪・関西ワイドで取り組むもの

■ : 双方にまたがるもの

(剰余金以外の別財源により対応するものを含む)

■ 記念公園ゾーンの整備

- 大屋根リングを一部（約200m）残置するとともに、その外側近くに「EXPO2025記念館（仮称）」を整備し、万博レガシーを振り返る展示や来館者の交流、地方創生や産業創出を行うスペースを設け、全体を記念公園ゾーンとして整備する。
- 記念公園ゾーンの基本調査には地域未来交付金を活用し、その結果を精査しながら、具体的な整備を進めていく。
- リングの初期改修や維持管理（20年間程度を想定）等に剰余金を活用する。

■ ソフトコンテンツの整備（万博跡地におけるレガシー発信等）

- VRなど最先端技術を活用し、大阪・関西万博当時を体験できるコンテンツを整備する。

■ 記念公園での文化・芸術イベント

- 持続的な文化・芸術イベントや音楽イベントなどを実施し、記念公園を交流の場として活用する。

■ 万博に関連した広域観光促進

- 夢洲というレガシー拠点を活かして観光誘客の拡大を図り、周辺地域へもその効果を波及させていく。その際、陸海空の交通網を活用して面的な効果を拡大していく。

その他、剰余金の精算、博覧会協会の活動について

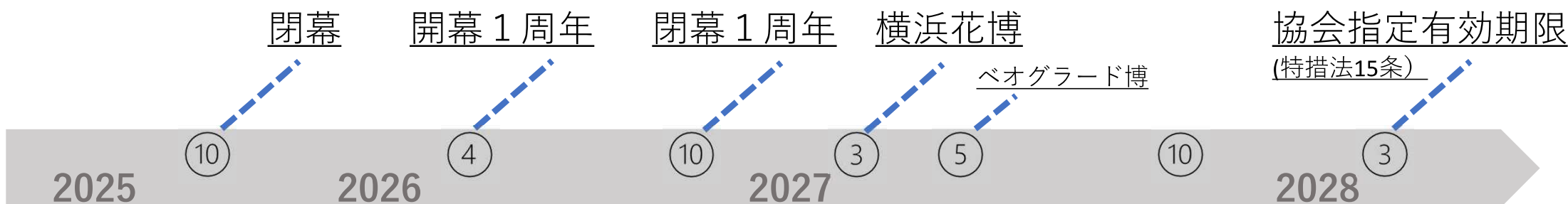
【剰余金の精算】

- 剰余金は博覧会協会の清算を以て各主体へ配分をすることを原則とする。
- 博覧会の運営費収支は、約320億円から370億円の黒字見込みとなっているが、下記の博覧会協会の活動等に要する費用を除いた額を最終的な剰余金として、本報告書に示す配分割合に応じて配分する。

【博覧会協会の活動等】

- 剰余金を活用したレガシー展開の取組は、剰余金の配分後となる一方で、アフター万博の取組は、万博閉幕後から既に始まっている。本報告書に記載されたレガシー展開の取組も、既に動き出しているものがあり、これらの流れを途切れさせることなく、国、地元自治体、経済界、学術機関、その他関係機関は早期に取り組み進めていく必要がある。
- 博覧会協会においても、その活動期間（2028年3月末まで）中に、万博の成果を広めるための取組を継続し、解散後の関係者の取組へつなげていくことが必要である。
- 具体的には、博覧会協会自らも記念イベント（周年イベント等）を継続して展開するのみならず、様々な主体が実施する万博関連イベントを後押しする支援策として、後援名義やミyakumiyakuの利用促進などの取組を進める。こうした取組が、万博関連イベントの機運醸成となり、将来にわたる万博を契機とした創造活動の深化・展開を統一感を持って実施する基盤となっていくと考えられる。
- 博覧会協会の所有する運営の記録データやノウハウ、知的財産については、その維持管理コストも含めて、後継団体（複数にまたがることも想定）に引き継ぎ、透明性の高い形で活用していく必要がある。

万博の成果を広めるための取組の継続について



周年事業等 主催

- ・ 閉幕1周年イベントを2026年10月に開催
- ・ 開幕2周年は、GREEN×EXPOでの記念事業を検討
- ・ その他、関係機関と連携した協会主催イベントを検討

関連イベント 支援

- ・ 成果検証委員会で示された3つの取組の柱を前提にレガシー展開に資する万博関連イベントに対する支援を強化（後援イベントの広報協力、アイテム貸出等）

(参考) 様々な主体が実施する万博関連イベント

- ・ 閉幕後の万博関連の取組を報道等から収集したところ、約250件の取組を確認。
- ・ 公的機関、民間企業など、多様な主体による取組が進められている。

図表 アフター万博イベント等実施主体



※2025年10月～2026年3月の公開情報をもとに、閉幕後の関連事例（会場内展示物の再展示・移設、成果報告会、レガシーに向けた意見交換の場等）を収集・整理し、傾向把握のために類型化したもの。網羅的な全数把握ではなく、公開情報から確認できた事例に基づく。
対象データ：ニュースリリース、自治体・企業等の公式発表、報道記事、各種Webサイト掲載情報

万博関連イベントの例 (1) 万博で創られた「つながり」の拡大・発展

最先端技術等の 実装化・産業化

Global Startup EXPO 2026

「社会実装」を軸に、国内外のディープテック・スタートアップを世界に発信し、世界のスタートアップ・エコシステムが交差する「世界を代表するディープテックの国際イベント」。

2026年10月5日～7日

主催：Global Startup EXPO
2026 実行委員会 ※1

国際交流プログラム

若者万博

大阪・関西万博を契機としてつながりが生まれた、若者・学生団体によって創られたコミュニティ。閉幕後も共創のムーブメントを継続させるべく、2027年横浜園芸博を見据えて活動を展開中。

2026年2月4日開催

主催：NEXT万博実行委員会 ※2

万博に関連した 広域観光促進

アフター万博 砂ンプラリー

大阪・関西万博閉幕後も鳥取県内の観光施設に万博公式スタンプを設置し、これを記念してスタンプラリーを実施することにより、県内周遊を促進。

2026年10月～27年3月開催

主催：鳥取県 ※3

※1 出典：主催者HP <https://global-startup-expo.com/>

※2 出典：NEXT万博実行委員会プレスリリース <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000001.000175631.html>

※3 出典：博覧会協会後援事業 鳥取県 <https://www.pref.tottori.lg.jp/325264.htm>

万博関連イベントの例 (2) 万博を契機とした創造活動の深化・展開

未来世代の 価値体験機会を拡大

いのち会議・SSIシンポジウム 「共通善の経済・経営へ ― 知識創造、共感 経済、共助資本主義による実現 ―」

いのち会議と大阪大学がこれまで積み重ねてきた活動により社会に新たなダイナミズムを起こしつつある中で、“知識創造 × 共感 × 共助”を基盤とした新しい経済モデルを提示するシンポジウムを開催。

2026年3月30日開催
主催：いのち会議、
大阪大学SSI ※1

プロデューサー等による 万博を契機とした活動

アフター万博 クラゲ祭り (KURAGE Festival)

「いのちの遊び場 クラゲ館」が中心となり、海外パビリオンとともに開催。ワークショップやブース展示などを通して万博体験の一部を再現するとともに、万博公式スタンプ（クラゲ館・ヨルダン館・ガーナ館など）の一部も設置予定。

2026年2月28日開催
主催：株式会社 steAm ※2

プロデューサー等による 万博を契機とした活動

万博の 안드로이드が京都にやってきた！ 記念シンポジウム

「いのちの未来」で展示された 안드로이드の譲渡を記念するシンポジウムを開催。その他、안드로이드の展示に加え、「いのちの未来パビリオン」を追体験できる公式アーカイブ映像も上映。

2026年2月21日開催
主催：京都府 / いのちの未来研究所 ※3

※1 出典：主催者HP <https://www.ssi.osaka-u.ac.jp/activity/salon/8thssisymposium/?sortcat=cat01>

※2 出典：博覧会協会後援事業 主催者HP <https://0228kurageexpo.peatix.com/view>

※3 出典：京都府報道発表 <https://www.pref.kyoto.jp/koho/kaiken/documents/25011403.pdf>

万博跡地における レガシー発信

開幕1周年イベント 「EXPO2025 Futures Station」

万博で生まれた技術や取り組み、未来社会に向けたプロジェクトを紹介する展示、イベント参加の記念としてオリジナルスタンプを押印できる企画などを実施。

主催：博覧会協会

共催：経済産業省

会場：

大阪メトロ中央線 夢洲駅地上

プログラム：記念スタンプ、

メッセージボードほか

2026年4月8日～14日開催



EXPO2025 Futures Stationの様子